

(6) イオウ化合物 本品 4.0 mL にエタノール (99.5) 2 mL を加え、水酸化ナトリウム溶液 (1 → 5) に酸化鉛 (II) を飽和した澄明な液 2 滴を加え、しばしば振り混ぜながら、70 °C で 10 分間加熱した後、放冷するとき、液は暗褐色を呈しない。

(7) 多環芳香族炭化水素 本品 25 mL を 25 mL のメスシリンダーにとり、100 mL の分液漏斗に移し、メスシリンダーを吸収スペクトル用ヘキサン 25 mL で洗い、洗液を分液漏斗に合わせ、よく振り混ぜる。これに吸収スペクトル用ジメチルスルホキシド 5.0 mL を加え、2 分間激しく振り混ぜた後、15 分間放置する。下層を 50 mL の分液漏斗に移し、吸収スペクトル用ヘキサン 2 mL を加え、2 分間激しく振り混ぜた後、2 分間静置する。下層を 10 mL の栓付遠心沈殿管に移し、毎分 2500 ~ 3000 回転で約 10 分間遠心分離して得た澄明な液を試料溶液とする。別に吸収スペクトル用ヘキサン 25 mL を 50 mL の分液漏斗にとり、吸収スペクトル用ジメチルスルホキシド 5.0 mL を加え、2 分間激しく振り混ぜた後、2 分間静置する。下層を 10 mL の栓付遠心沈殿管に移し、毎分 2500 ~ 3000 回転で約 10 分間遠心分離して得た澄明な液を対照とし、紫外可視吸光度測定法により直ちに試験を行うとき、波長 260 ~ 350 nm における試料溶液の吸光度は 0.10 以下である。

(8) 硫酸呈色物 本品 5 mL をネスラー管にとり、硫酸呈色物用硫酸 5 mL を加え、水浴中で 2 分間加熱した後、取り出し、直ちに 5 秒間激しく上下に振り混ぜる。この操作を引き続き 4 回繰り返すとき、流動パラフィン層は変色しない。また、硫酸層の色は次の比較液より濃くない。

比較液：塩化鉄 (III) の色の比較原液 3.0 mL に塩化コバルト (II) の色の比較原液 1.5 mL 及び硫酸銅 (II) の色の比較原液 0.50 mL を加えて振り混ぜる。

貯法 容器 気密容器。

## 歯科用パラホルムパスタ

Dental Paraformaldehyde Paste

### 製法

パラホルムアルデヒド、細末	35 g
塩酸プロカイン、細末	35 g
加水ラノリン	適量
全量	100 g

以上をとり、軟膏剤の製法により製する。

性状 本品は帯黄白色で、特異なおいがある。

### 確認試験

(1) 本品 0.15 g にジエチルエーテル 20 mL 及び 0.5 mol/L 水酸化ナトリウム試液 20 mL を加えてよく振り混ぜた後、水層を分取し、水を加えて 100 mL とする。この液 1 mL にアセチルアセトン試液 10 mL を加え、水浴上で 10 分間加熱するとき、液は黄色を呈する (パラホルムアルデヒド)。

(2) (1) のジエチルエーテル層に希塩酸 5 mL 及び水 20 mL を加えてよく振り混ぜた後、水層を分取する。この液は芳香族第一アミンの定性反応を呈する (塩酸プロカイン)。

(3) 本品 0.15 g にジエチルエーテル 25 mL 及び水 25 mL を加えて振り混ぜた後、水層を分取し、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。別に塩酸プロカイン 0.01 g を水 5 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5 μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル (蛍光剤入り) を用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/エタノール (99.5) /アンモニア水 (28) 混液 (50 : 5 : 1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線 (主波長 254 nm) を照射するとき、試料溶液及び標準溶液から得たスポットの  $R_f$  値は等しい。

貯法 容器 気密容器。

## バレイショデンプン

Potato Starch

AMYLUM SOLANI

バレイショ澱粉

本品はジャガイモ *Solanum tuberosum* Linn (*Solanaceae*) の塊茎から得たでんぷんである。

性状 本品は白色の粉末で、におい及び味はない。

本品を鏡検するとき、多くはだ円球形又は卵球形で、長径 70 ~ 90 μm、しばしば 100 μm 以上の単粒、まれに 2 個の複粒、半複粒からなり、へそは偏心性で、層紋は明らかである。

本品は水又はエタノール (95) にほとんど溶けない。

### 確認試験

(1) 本品 1 g に水 50 mL を加えて煮沸し、放冷するとき、混濁した中性のり状の液となる。

(2) 本品はヨウ素試液を加えるとき、暗青紫色を呈する。

純度試験 異物 本品を鏡検するとき、他のでんぷん粒を認めない。また、原植物の組織の破片を含むことがあっても、極めてわずかである。

乾燥減量 18.0 % 以下 (6 時間)。

灰分 0.5 % 以下。

## パンクレアチン

Pancreatin

本品は食用獣、主としてブタの膵臓から製したもので、でんぷん消化力、たん白消化力及び脂肪消化力がある酵素剤であり、1 g 当たり 2800 でんぷん糖化力単位以上、28000 たん白消化力単位以上及び 960 脂肪消化力単位以上を含む。通例、適当な賦形剤で薄めてある。

性状 本品は白色～淡黄色の粉末で、特異なおいがある。

### 純度試験

(1) 変敗 本品は不快な又は変敗したにおい及び味がない。

(2) 脂肪 本品 1.0 g にジエチルエーテル 20 mL を加え、時々振り混ぜ 30 分間抽出した後、ろ過し、ジエチルエーテル 10 mL で洗い、ろ液及び洗液を合わせ、ジエチルエーテルを蒸発し、残留物を 105 °C で 2 時間乾燥するとき、その量は 20 mg 以下である。

乾燥減量 4.0 % 以下 (1 g, 減圧, 酸化リン (V), 24 時